

内閣官房内閣情報調査室

〒100-8968 東京都千代田区永田町 1-6-1 内閣府庁舎 6階

TEL. 03 (5253) 2107 (採用専用)

TEL. 03 (3581) 5083 (直通)

【丸ノ内線・千代田線】

国会議事堂前駅 3番出口 徒歩5分

【銀座線】

溜池山王駅 8番出口 徒歩10分

【南北線 溜池山王駅(千代田線ホーム経由)】

国会議事堂前駅 3番出口 徒歩5分



内閣官房

内閣情報調査室

採用案内 2023

CABINET INTELLIGENCE and RESEARCH OFFICE



The fact

that a great many people
believe something

is no guarantee of its truth.

W. Somerset Maugham

多くの人間が信じているという事実が、真実であることの保証とはならない。—— サマセット・モーム

WHAT IS

INTELLIGENCE?

RECRUIT BOOK 2023



内閣広報室提供

CABINET INTELLIGENCE and RESEARCH OFFICE

contents

- 2 情報の世界を志す皆さんへ
- 3 内閣の総合戦略機能、内閣官房
- 4 内閣情報調査室の組織体制
- 5 総理の目と耳としての役割
- 6 「インテリジェンス」を紡ぐ
- 7 内閣情報調査室の業務
- 10 内閣衛星情報センターの業務
- 13 職員から皆さんへ
- 15 職員の日
- 17 1年目職員に聞きました
- 19 キャリアステップ
- 20 待遇・制度、採用について
- 21 2023年度採用スケジュール
- 22 内閣情報調査室の歴史

Message

情報の世界を志す皆さんへ

新型コロナウイルスが世界を一変させて三年が経過し、ロシアによるウクライナ侵攻は、国際秩序を揺るがす一大事となった。我が国を取り巻く安全保障環境は、常に変化し、複雑化している。北朝鮮は、コロナ感染者の存在を認めるも弾道ミサイル発射を繰り返し、中国は、「ゼロコロナ」政策を転換して、国際的な影響力拡大を図っている。

このような情勢下で、内閣情報調査室が果たすべき役割は、内閣の重要政策を情報面から支えることである。我が国最高レベルの政策決定者である官邸幹部への報告には、細心の注意を払う必要がある。分刻みの日程で動く総理や官房長官に対して、迅速に、しかも限られた時間の中でいかに有意義な報告を行うか、毎回頭を悩ませる。楽ではないが、我が国の国益に直結する仕事である。

内閣情報調査室には、我が国情報関係機関の調整役としての顔もある。政府の情報機能は着実に強化されてきた。情報収集衛星のように、諸外国に引けを取らないレベルに達している分野もあれば、抜本的な能力向上が必要な分野もある。令和4年12月に閣議決定された国家安全保障戦略において、我が国の安全保障のための情報に関する能力の強化が謳われており、政策部門に対して、より高付加価値の分析結果の提供が求められている。国際社会における我が国のプレゼンス、同盟国や友好国と安全保障面での協力が大きく進展していることを考えると、これを支える情報機能の更なる強化を急がなくてはならない。

情報の世界は、誇張したイメージで語られることが多い。小説や映画で描かれる陰謀渦巻くおどろおどろしい世界、特定の「スター」が見せる縦横無尽の活躍、いずれも実際にはあり得ない絵空事だ。実際は、事実関係を淡々と追求する「静的」な世界である。特定の個人に脚光が当たることもない。地道な努力と忍耐力が求められる「縁の下の力持ち」の世界である。

情報収集にはいくつもの対象分野・手法があり、情報の集約や分析にもそれぞれのノウハウがある。必要とされる人材は、画一的ではない。各分野で実務経験を積むことにより、独自のセンスを磨き、専門性を身に付け、情報のプロとして活躍する職員も多い。情報の世界を志す人にとって最も重要なのは、自国のため、公のために力を尽くしたいという強い意識である。そんな意識を持ち、柔軟な思考で新たな課題に果敢に取り組む気概のある皆さんが、内閣情報調査室の一員に加わってくれることを心から願っている。

内閣情報官

龍澤 裕昭



内閣広報室提供



内閣広報室提供

WHAT IS INTELLIGENCE?

インテリジェンスとは何か

01

Mission

内閣の総合戦略機能、内閣官房

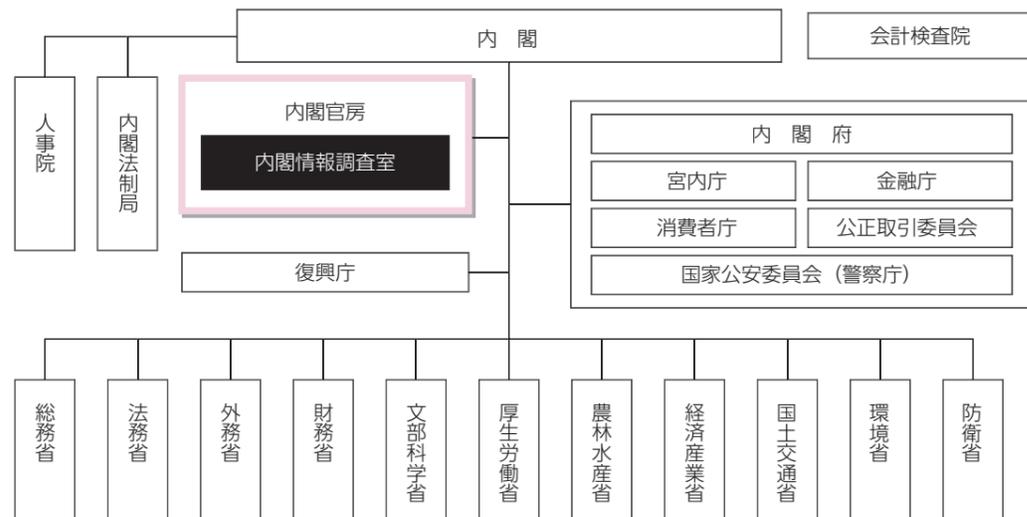
「内閣官房」は、内閣^{*}の補助機関です。内閣の首長たる内閣総理大臣を、直接補佐・支援する、内閣の「総合戦略機能」を担っています。

※内閣：
内閣総理大臣と国務大臣で組織
内閣法第12条

内閣官房の職務のうち、内閣情報調査室が担当し、内閣情報官が掌理する主な事務は、「内閣の重要政策に関する情報の収集及び分析その他の調査に関する事務」と定められており、非常に幅広い分野を対象としています。

内閣官房組織令第4条

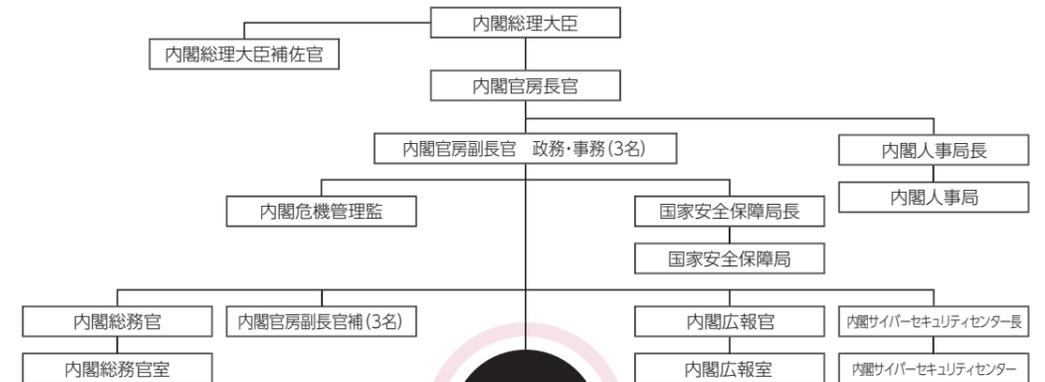
中央省庁機構図



内閣情報調査室の組織体制

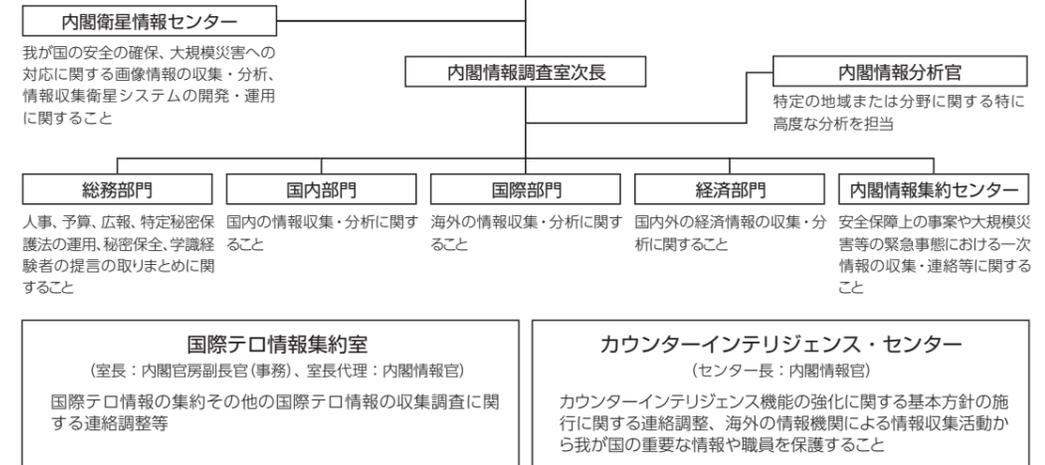
内閣情報調査室は、4つの部門を基礎とし、近年諸機能を加え、多機能型の総合的な機関として拡大しつつあります。

内閣官房



内閣情報官

内閣情報調査室



02

Mission

総理の目と耳としての役割 ～政策決定プロセスの支援～

情報機関の役割は、
政策決定者の判断を助けるための支援です。

政策決定者が国家の進むべき方向性を決定する際、背景事情やリスク・利益といった物事の見通しがなければ、正しい判断を行えません。インテリジェンスとは、いわば国家という大きな船が航海する上での不可欠な海図なのです。



内閣広報室提供

■ インテリジェンスの提供

内閣情報調査室が提供する
インテリジェンスは、様々な場面で
国の政策決定を支援しています。

内閣総理大臣への定例報告

毎週定例の内閣総理大臣への報告を行っています。重要かつ緊急を要する情報については随時報告されます。総理の目と耳としての役割を果たし、官邸の柔軟かつ機敏な政策決定を支援するのが当室の役割です。

国家安全保障会議(NSC)への参加

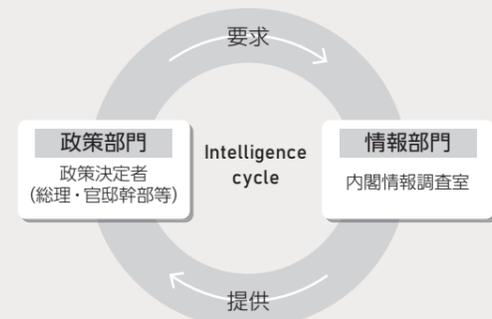
NSCに提供された情報は、国家としての政策立案等のために活用されています。



■ インテリジェンス・サイクル

情報と政策は、
分離しつつも密接にリンクしています。

政策決定者が自ら情報収集を行うと、結論ありきの恣意的な内容になりかねません。政策を決める者(政策部門)と、情報を扱う者(情報部門)は、明確に立場を分ける必要があります。しかし両者は乖離することなく、密接にリンクしています。両者は、インテリジェンスの要求と提供を繰り返し、有機的なインテリジェンス・サイクルを形成しています。



03

Mission

「インテリジェンス」を紡ぐ

内閣情報調査室の業務は、
一般的な行政事務とは趣が異なります。
タイムリーで質の高い「情報(インテリジェンス)」を
紡ぎ出すことが、私たちの仕事です。

私たちを取り巻く様々な国内外の情勢や重要課題について、背景の調査・現況の把握と今後の動向の分析を、客観的・中立的・多角的な観点から行います。



■ 内閣情報調査室における「インテリジェンス」の創造

当室の業務は、時に「新聞記者」「商社マン」「学者」といった言葉になぞらえられます。こうした例えは、私たちの業務がいわゆる役人的な型にはまらないものであることを言い表しています。

収集 フットワークを生かす

国内外の様々な人から話を聞かほか、公開情報の収集、海外の情報機関との情報交換、人工衛星による画像情報の収集等、積極的に情報収集を行っています。

分析 物事の背景、真相を解き明かす

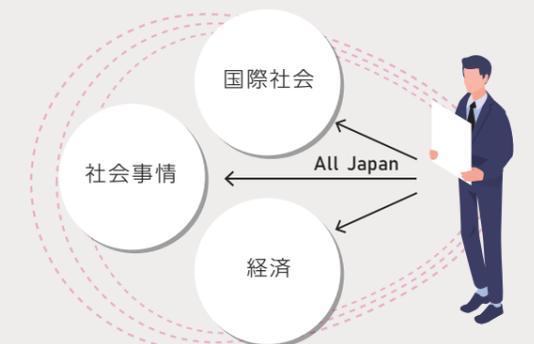
様々な情報収集手段(公開情報、衛星画像、人的情報等)によって得られた情報に基づき、分析を行います。



■ 縦割りにとらわれないオールジャパンの視点

特定の政策や分野に縛られない
“オールジャパン”の視点から業務が行える
ことは、当室の大きな特徴のひとつです。

内閣情報調査室は、「内閣の重要政策に関する全ての情報」を取り扱っています。他省庁がそれぞれの掌理する範囲内の情報を取り扱うのに対し、当室では特定の事項に限定されることなく、幅広い事象を対象として情報の収集・分析を行っています。



CABINET INTELLIGENCE and RESEARCH OFFICE

内閣情報調査室の業務／内閣衛星情報センターの業務

01

Works

多機能型の総合的な機関として拡大する 内閣情報調査室

■ 情報コミュニティ省庁との連絡調整

内閣情報調査室は、
情報コミュニティの「要」(結節点)
としての役割を果たしています。

当室は、官邸の政策担当者と情報コミュニティ省庁、両者をつなぐ連絡調整の役割を担っています。閣議決定に基づき設置された内閣情報会議、合同情報会議、情報収集衛星推進委員会及び情報収集衛星運営委員会を開催するほか、当室が中心となって関係省庁との連絡会議を随時開催し、いわば「オールジャパン」で内閣の政策判断を支援する体制が構築されています。



■ 緊急事態の初動対応

安全保障や災害に関わる情報を、
当室から官邸幹部に速報します。

内閣情報集約センターでは、国内外の緊急かつ重要な情報を24時間体制で収集・集約しています。各省庁・内外の通信社との専用回線等のほか、災害発生時には防衛省・警察庁等のヘリコプターから映像をリアルタイムで受信するシステム等を備えています。

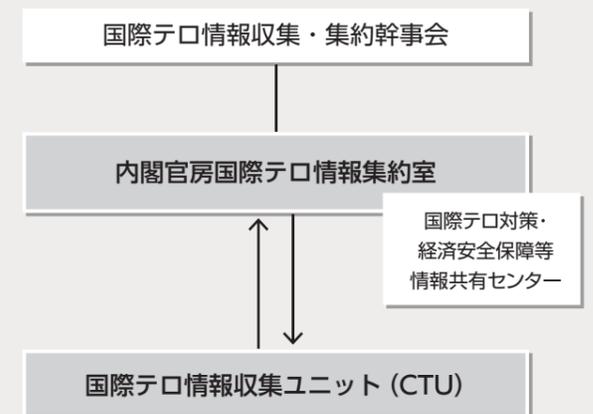


■ 国際テロ情報の収集・集約体制

邦人の安全確保のため、
官邸直轄で国際テロ情報の
収集・集約体制が整備されています。

国際テロ情報の収集・集約体制としては、「国際テロ情報集約室」「国際テロ情報収集ユニット」の2つの組織体が整備されています。

「国際テロ情報集約室」は、官邸幹部や関係省庁の情報関心の取りまとめ等を行い、これに基づいて、「国際テロ情報収集ユニット」が、いわば官邸直轄の実働部隊として海外で情報収集を行っています。ユニットは、4名の幹部級の職員の下、東南アジア、南アジア、中東、北・西アフリカ、欧州の5地域を対象に活動しており、我が国として、海外を対象としたファーストハンドの情報収集に取り組んでいるほか、邦人関連テロ発生時に備えた、各国の治安・情報機関との迅速な協力ラインの確立に努めています。平成27年12月に発足したこの組織には、平成30年8月、「国際テロ対策等情報共有センター(現:国際テロ対策・経済安全保障等情報共有センター)」が設置され、テロ情報への迅速な対応体制があらたに強化されました。



内閣広報室提供



内閣広報室提供

内閣情報調査室の 基礎となる4つの部門

■ 総務部門

人事・会計・予算・国会対応といった
管理・調整業務のほか、
以下の業務を行っています。

情報の総合分析

特定の地域・分野について、内閣情報分析官のもとで
高度な分析に従事するとともに、内閣情報会議や合同
情報会議の運営等、インテリジェンス・コミュニティの
連携を強化するための業務を行っています。

学識経験者の提言取りまとめ業務

国際情勢等をはじめとする各界の有識者から様々な
情報や見解、提言等を聴取します。取りまとめた提言は
官邸の政策判断に寄与するべく、総理大臣等に報告
されます。

特定秘密保護法に関する業務

特定秘密保護法に基づく制度の統一的な運用のため、
各省庁からの問い合わせに応じる等の業務を行って
います。

■ 国際部門

海外の特定の地域や分野に関する
情報収集・分析を行っています。

海外関係機関との渉外業務

海外関係機関と意見交換や協議を行い、情報収集・
分析を行うほか、関係構築や連携を図っています。

オール・ソース・アナリシス

情報収集には、刊行物やインターネット等の公開情報の
ほか、例えば人的情報や衛星画像等といった多種類の
情報収集手段を用いています。これらから得られる
情報を総合的に評価し分析する「オール・ソース・アナ
リシス」の体制を構築しています。



内閣広報室提供

■ 国内部門

政治・社会事情について、
国民の意見の収集・分析や
国内の新聞・放送・雑誌等の
論調分析を行っています。

メディア情報を用いた情報収集・分析

一般に公開されている新聞・雑誌・テレビ等の
メディア情報を継続的にチェックし、重大な事案
として発展する可能性のある情報の収集・分析
を行っています。

各界の専門家との意見交換

政界やメディア等、国政の主要課題に精通あるい
は影響力を持つ各界のプロと意見交換を行い、
情報収集・分析を行っています。

■ 経済部門

日々のマーケット情報や、
コモディティ(商品市場)の動向、
日々発表される内外の経済指標、
国際機関の分析評価レポート、
国内外のシンクタンクのレポート等を
継続的にチェックし、
政策にとらわれない客観的な経済分析・評価を
行っています。

02

Works

衛星開発から運用、
画像情報分析まで行う
唯一の政府機関
内閣衛星情報センター



三菱重工/JAXA

■ 内閣衛星情報センターの組織体制

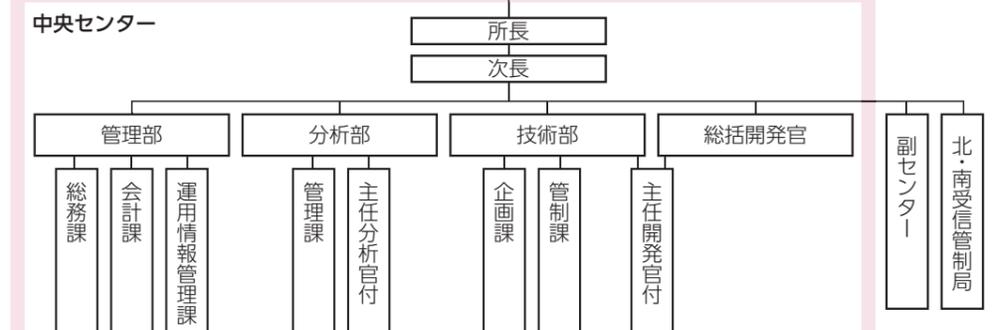
内閣衛星情報センターは、
内閣情報官直下の
内閣情報調査室におかれた組織です。

組織体制は所長、次長以下、管理部、分析部、技術部
がある中央センター(東京都)と、副センター(茨
城県)及び北受信管制局(北海道)・南受信管制局
(鹿児島県)から構成されています。
職員は、中央センター、副センター及び北・南受信
管制局のいずれかに勤務することとなります。



内閣情報官
内閣情報調査室

内閣衛星情報センター



■ 内閣衛星情報センターの歴史

内閣衛星情報センターは、平成10年(1998年)の北朝鮮によるミサイル発射を契機に、外交・防衛等の安全保障及び大規模災害等への危機管理のために必要な情報の収集を主な目的として、平成13年(2001年)に設立されました。

現在、光学衛星2機とレーダ衛星2機の4機を運用しています。今後とも機数の増加や性能向上により情報収集能力をさらに強化し、衛星開発から運用、画像情報分析まで行う唯一の政府機関として、国民に対し貢献できるよう努めていきます。

■ これからの内閣衛星情報センター

現在内閣衛星情報センターでは、情報収集衛星8機及びデータ中継衛星2機の10機体制の構築を目指しています。10機体制により、地球上の任意の地点を1日2回以上撮像可能になります。また、伝送機会の大幅な増加により即時性も向上し、現在よりも鮮度の高いタイムリーな情報を、官邸や省庁等に提供することが可能になります。他方、複数の衛星の並行開発や10機体制の運用に耐えうる地上施設の開発が求められるとともに、情報収集衛星の運用業務も増加することが見込まれることから、これらを支える内閣衛星情報センター職員の責務は今後さらに重要となると考えています。

■ 加工処理画像の公開

国内で大きな災害や事故が起こったとき、内閣衛星情報センターでは自治体や国民の皆様へ情報を提供するため、情報収集衛星の画像を加工して公開しています。平成27年に公開を始めてから令和4年までの間に、大規模な洪水や火山噴火、地震等8件の災害で、合計153件の画像を公開しています。



熊本県(令和2年7月熊本県豪雨橋梁消失)



宮城県栗原市中央部(令和元年10月台風19号に係る被災地域)

■ 情報収集衛星の必要性

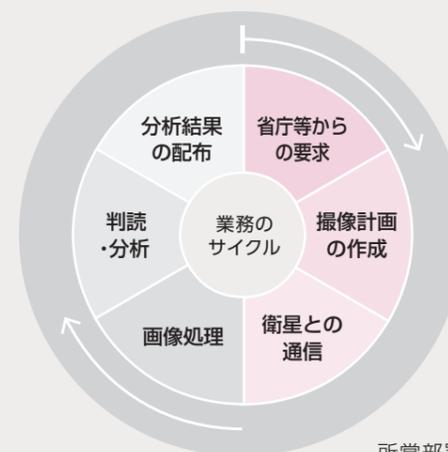
我が国を取り巻く国際情勢は依然として厳しく、また大規模な自然災害も続いています。外交・防衛等の安全保障や大規模災害等への対応等の危機管理のための情報収集は怠ることのできない状況です。

内閣衛星情報センターでは、情報収集衛星により撮像した安全保障や危機管理に関する画像を、官邸をはじめとする政府機関に提供するとともに、自ら分析を行っています。画像から得られる情報は高い評価を受けており、各機関で積極的に活用されています。

■ 情報収集業務

情報収集衛星を用いた情報収集の業務は、右図のサイクルで行います。

このサイクルは省庁等からの要求、撮像計画の作成、衛星との通信、画像処理、判読・分析、分析結果の配布の順に循環しています。サイクル各項目における業務内容及び所掌する部署は、下表のとおりです。



業務のサイクル		所掌部署
① 省庁等からの要求	政策立案や任務遂行に必要な情報について、省庁等から要求を受け付け	■ 管理部
② 撮像計画の作成	情報収集衛星を用いて地球上のどこを撮像するか計画	■ 管理部 ■ 分析部
③ 衛星との通信	情報収集衛星を制御する命令を送信 また、撮像した画像データを受信	■ 技術部 ■ 副センター ■ 北・南受信管制局
④ 画像処理	受信した画像データを視認可能なものとするために、画像処理を実施	■ 技術部
⑤ 判読・分析	画像を判読・分析し、報告書を作成	■ 分析部
⑥ 分析結果の配布	作成した報告書を省庁へ提供	■ 管理部 ■ 分析部

■ 情報収集衛星システム開発業務

内閣衛星情報センターでは情報収集の業務だけでなく、情報収集衛星システムの開発*も独自に行っています。情報収集衛星システムは衛星システムと地上システムに分類されます。情報収集衛星は衛星システムとして、撮像計画の作成や衛星との通信、画像処理等を行うシステムは地上システムとしてそれぞれ開発しています。情報収集業務を支えるために、運用者のニーズをふまえた的確な開発により、運用しやすいシステムを構築することが求められます。

*内閣衛星情報センターにおける開発業務とは、衛星の設計図の製図やシステムのプログラミングといった専門的な業務ではなく、情報収集衛星システムの開発業者の選定や、開発管理業務を指します。開発管理業務とは、最新の技術情報や情報収集業務及び運用者のニーズから、今後必要となる情報収集衛星の性能等の仕様を決定するとともに、システムの開発状況を管理することです。

具体的には、開発予算の作成、最新の技術動向や運用者のニーズの調査、スケジュールの進捗管理等があります。

*情報収集衛星には、現在年間800億円以上の予算が使われています。これは政府の宇宙関係予算の中で最大のものです。



message

職員から皆さんへ

内閣情報調査室には、様々な情報の専門家及び専門家のたまごがいます。様々なフィールドで新たな課題に挑戦し、組織をリードし続ける職員の声をお届けします。

緊張感と責任感のある業務の中で 達成感を得られる瞬間が多い組織、 それが内調 国際部門

私は国際部門で比較的長く分析業務に携わり、その後は他省庁への出向や、在外公館勤務を経験し、帰国後は海外関係機関との連絡調整業務に従事しています。様々な職場を経て実感したのは、内調で培う情報収集等のノウハウは、内調の外でも通用し、重宝されることです。また、内調で情報収集力などの「個」の力を磨くことができる一方、安全保障環境が年々複雑化する中、個人や個別の国だけで対応することは非常に困難です。よって、職場内で「チーム」の一員として対応し、外国との連絡調整を通じて国際的な「チーム」を構築することに、非常にやりがいを感じています。更に、官邸機能強化が求められる中、官邸直結の内調では緊張感もありますが、達成感を感じられる瞬間も多いです。他省庁では得られない経験も多々あり、長年勤めているうち、その経験は年々貴重な内容になっていると感じています。皆さんのそれぞれ異なる能力を内調で生かし、日本の安全保障の形成に貢献してみませんか。

原点を常に振り返って モチベーションを再燃

国際部門

国際情勢の複雑化、社会経済構造の変化により、経済と安全保障が不可分となった現代において、経済安全保障は重要なテーマとなっています。我が国においても昨年、経済安全保障推進法が制定され、この新たな課題に対し、産学官の組織が日々手探りで対策を進めている状況です。こうした状況の中、情報コミュニティの中核である当室が果たすべき役割は大きく、若手職員である私も日々奔走しています。前例といえるものがほとんどないため、苦勞することも多いですが、このような立場を任せてもらえることを誇りに思い、国益を守るためには何が必要なのかという原点を忘れることなく、日々の地道な業務を乗り越えています。年々厳しさを増す我が国の安全保障環境を鑑みると、当室は決して楽な職場とは言えません。しかし、このような状況だからこそ、国家の難題に最前線で立ち向かいたいという熱い志を持った皆さんと共に働ける日を心待ちにしています。

“この仕事でしか出会えない” 新たな発見が大きな魅力 衛星センター分析部

私は内閣衛星情報センターで衛星画像の分析及び報告書の作成業務に携わっています。衛星から送信されてくる画像から意味ある情報を抽出、一つひとつ評価し、報告書を作成します。分析対象に関する背景知識がなければ、意味ある情報の抽出及びその評価はできないため、画像分析官は担当分野の関連情報の収集が欠かせません。収集する範囲は内外情勢、歴史、技術等多岐にわたります。「百聞は一見に如かず」と言いますが、文字情報だけでは不十分な場合、参考になる実物を見に出かけることもあります。私は画像分析を経験したことで、毎日歩く街の見方が変わり、興味の幅が大きく広がりました。情報業務の多くがそうであるように、画像分析も華々しさはなくひたすら地味で骨の折れる作業ですが、この日々の緻密な積み重ねにより“この仕事でしか出会えない”新たな発見に至ることが他にはない大きな魅力です。

同僚や外部の専門家との交流を通じて、 幅広いスキルの習得&レベルアップ 経済部門

近年の様々な領域における米中の対立やウクライナ紛争の展開等を踏まえると、経済分野に関する情報の重要性は増すばかりです。皆さんも原油価格の高騰や円安の影響を少なからず受けたのではないのでしょうか。経済部門では、マーケットの動向や金融市場の動き、エネルギーや食糧問題などについて、各国政府や民間機関が公表する統計データを丹念に分析するほか、専門家からのヒアリングも行っています。経済学部出身でない私は、専門的な知識不足を痛感することも多いですが、他省庁からの同僚に様々な場面でサポートしてもらっています。経済部門に限らず、内調には多くの出向・派遣者が来ています。自らの努力は勿論、同僚や外部の専門家との付き合いの中で、より幅広いスキルアップを図ることができるのが当室の魅力の一つだと思います。一緒に働く中で、お互いを高め合いましょう。

良質な情報を継続的に集めるために不可欠なことは、 他人との信頼関係や、情報センス・人間力の向上 国内部門

私は「資料作成に足りない情報は何か」を自問自答しつつ、国内の諸情勢に精通する各界のプロと直接会話をし、情報を集める日々を送っています。庁舎外で、一対一で会うことも多く、一人で背負うプレッシャーはありますが、個人の裁量が大きく、比較的自由的な働き方が可能です。もちろん、「裁量が大きい=丸投げ」ではなく、スキルアップに必要な場は組織がある程度提供してくれます。私の場合も、国内部門で公開情報の収集・分析を担当した経験や、他省庁への出向経験が今の業務に生きています。良質な情報を継続的に集めるには、他人との信頼関係の構築や、情報センス・人間力の向上が不可欠ですが、最初から全てできる人間などいません。カタルW杯の「三笥の1ミリ」のように最後まで諦めず、好奇心と向上心を持ち続けることができる皆さん、どうか恐れることなく、内調の門を叩いてみてください。

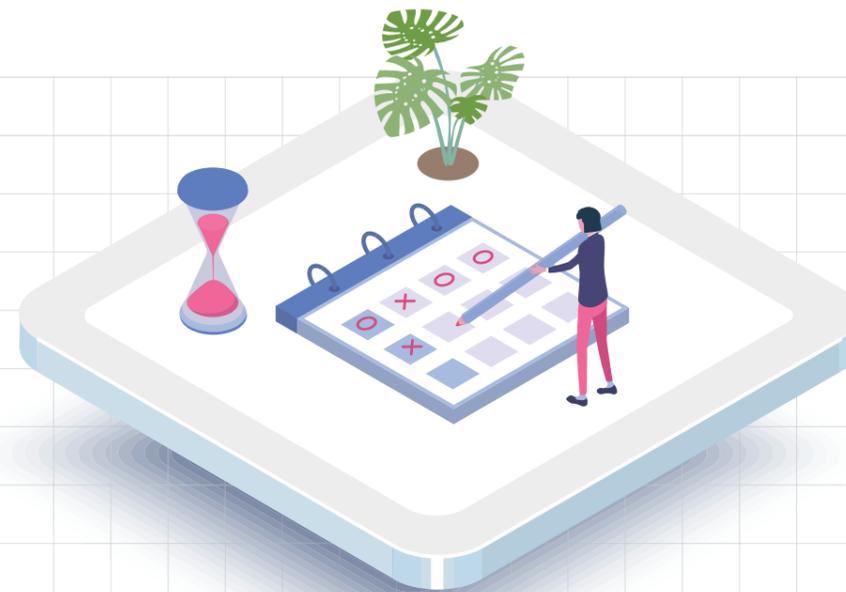
「やれること」「求められていること」が大きい内調は、 成長の機会を実感できる職場 総務部門

私は総務部門でサイバー関連情報に関する分析を担当しています。担当分野は技術的な観点が必要とされるものですが、関係機関からの情報や公開情報等を収集・集約した上で、同僚や上司と活発に議論をしながら分析を進めています。関係機関の専門家から分析内容の説明を求められることもあります。こうした業務を行うに当たっては、専門分野の理解力だけでなく、当室の求める「分析の専門家」としての能力が必要とされます。情勢を見るに当たり、技術的な視点は重要性を増していると感じていますが、変化の激しい分野であるため常に感度を高めておく必要があります。報告段階では専門知識のない方にも分かりやすく伝えることを意識しています。以上のように、職員が「できること」や職員に「求められていること」の大きな職場だと感じています。そのため、未だに自分の至らなさを痛感する日々ですが、同時に、職場が自分を成長させてくれていると感じています。そんな刺激的な職場を求めの方をお待ちしています。

1day

WORK STYLE

職員の日

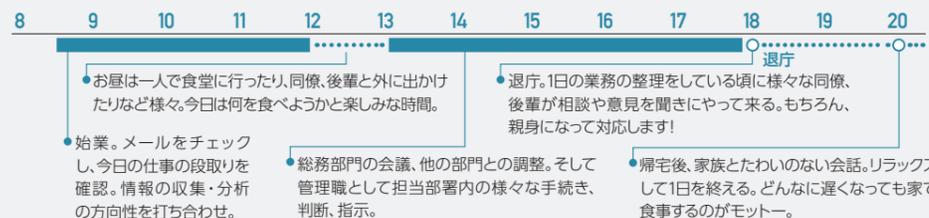


男性幹部職員

Life style

若い頃、大先輩から、「家庭やプライベートが充実していないといい仕事はできない」と言われました。24時間365日、常に考え続ける仕事ですが、オンとオフの切り替えは大切です。毎日の家族との会話や週末の夕食。家族との旅行も、新型コロナに気をつけながらもGW、夏休み、冬休みなど、季節ごとに国内外を旅行しています。また、週末に同僚や他省庁の仲間と一緒にアウトドアスポーツも楽しんでます。もちろん、週末であっても勉強の時間は設けています。時間は有限です。公私ともに無為に過ごさず、色々なことを経験して引き出しを増やすことが良い成果に結びつくと思います。

Daily Schedule



Career Paths

総務部門、内閣情報集約センター

1, 2年目は総務部門で組織全体がどのように動いているかを実務を通じて学んだほか、危機管理部署で総理官邸に速報すべきものは何かを学びました。

国際部門

憧れの国際部門に配属。日本の安全保障とは何かを強く意識するようになりました。

他省庁への出向、在外勤務

考え方も仕事のやり方も異なる組織での勤務。視野や人脈が広がったほか、内調の良い点、力を入れるべき点を客観的に考える機会になりました。また、海外での勤務はまさに最前線。日本の触覚としての役割を強く意識しました。

国際部門

海外勤務経験が活かせる部署に配属してもらいました。世界の中で日

本が、内調が果たすべき役割をより強く意識するようになりました。

他省庁への出向

内調の強みを出して貢献しようと努めました。人脈、知識も広がり、大きく成長できたと感じました。

国際部門

安全保障の最前線の部署に配属。海外のカウンターパートとの連携も多く刺激的。他省庁の人脈も生かされました。また、途中からは海外出張が多い部署に配属。日本人があまり行かない(安全ではない)国に多く行きました。

総務部門

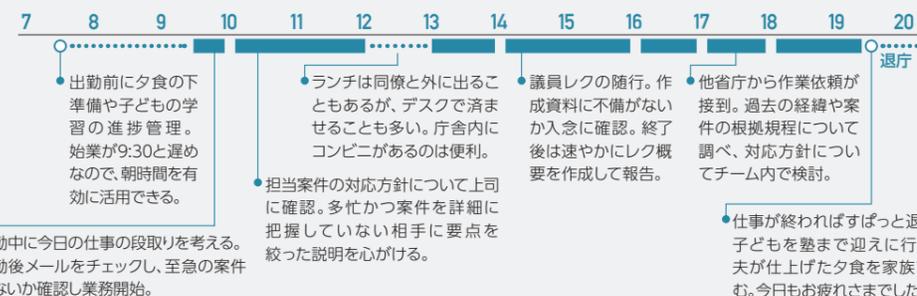
組織の要。内調の、日本の進むべき方向性を常に意識しながら組織の強化に努めています。これから内調に入ってくる人達はこれまでにない業務を経験できるでしょうから羨ましいです。

女性職員

Life style

両親は当然として、長女も放課後や週末に通塾などがあり、家族全員多忙な毎日を送っています。お互いの予定に配慮し、協力しながら自分の役割を果たすのは、家庭にも仕事にも通じる在り方と感じます。感染拡大防止のための規制が緩和された去年は、家族で全国各地に出かけました。伊勢、奈良、多賀城、鎌倉、関ヶ原、鹿児島、福岡・・・ほとんどが弾丸ツアーでしたが、忙しい毎日の中で時間を捻出し本物を見に行ったことは大切な思い出の一つとなりました。仕事と家庭、どちらの役割も重要で優劣つけがたいものです。二つの役割を果たすことでバランス感覚を持ち、結果としてともに高いパフォーマンスを上げていきたいと考えています。

Daily Schedule



Career Paths

総務部門

国会対応等の企画調整業務を担当。最初に総務部門に配属されたことで、組織の全体像を掴むことができたとともに、組織の基本的なルール、業務の対処方法を学ぶことができました。

総務部門

情報保全を担当。担当として身につけた情報保全に関する規程やルールは内調の業務を遂行する上で重要な基礎知識であり、どここの部署に行っても生きています。

国内部門

国内情勢に関する公開情報の収集・分析業務を担当。「自分に与えられた担当分野に責任を持ち、この分野では誰にも負けないと言えるほど突き詰めること」と指導を受け、業務遂行に当たっての心構えの一つとなりました。

総務部門

情報システム部門で予算要求や執行、契約業務を担当。全く未経験だったサイバーセキュリティ等に関する分野について一から勉強をしました。どのような立場に置か

れても、自分なりのベストを尽くす姿勢を学びました。

内閣衛星情報センター

内閣衛星情報センター勤務。各省との情報協力業務や本室との連絡調整を担当。本室内にいる時には気付かなかった本室の優れた点に気付いた一方、外に出て初めて自身の足らざる部分にも思い至ることができました。

総務部門

特定秘密保護制度を担当。取扱者として慣れ親しんできた法律ではあったが、異なる角度から関わることで、取扱者としては面倒に感じられることもあった規則の背後にある立法事実、法の趣旨を深く知ることができました。

総務部門

現在、二度目の企画調整担当。当時から多くの業務改善がなされているとともに、しっかりと継承されている点も非常に深い感慨を覚えます。後輩には自らの経験(成功も、失敗も...)を踏まえた助言を心がけています。

Q&A

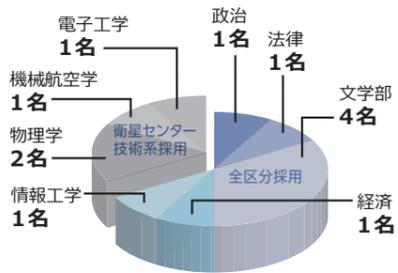
WORK STYLE

1年目職員に聞きました

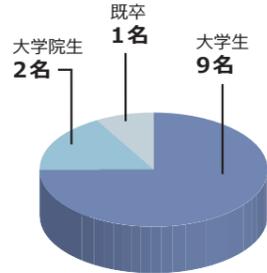


内閣情報調査室では、1年目職員も第一線で活躍しています。様々なフィールドで活躍する1年目職員12名(全区分・衛星センター技術系)の声を届けます。ぜひ、内調で働く上でのイメージを膨らませてください。

Q3. 大学(または大学院)での専攻は?



Q4. 官庁訪問時の身分は?

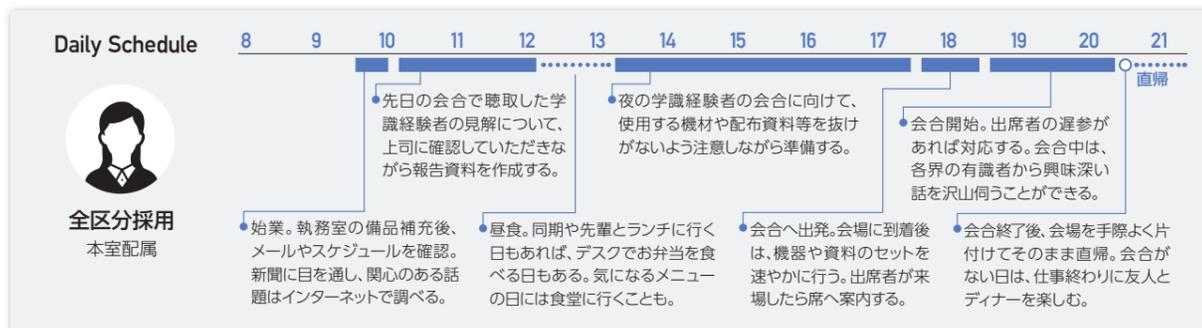


Q2. 内調の志望動機は?

内調の志望動機は?

- 俯瞰的な視点で物事を分析する力を身につけたかったから。また、在外公館での勤務など様々な経験を積むことが出来る点も魅力に感じた。
- 自動翻訳機能に頼ることができない内調こそが、自分の語学力や海外経験を行かせる場所ではないかと考えました。
- 日本の安全保障に、インテリジェンスの分野で関わることが出来るから。インテリジェンスに関する業務に専念できるという点で、他省庁ではなく内調を選びました。
- 説明会で会った職員の方々が向上心に溢れ、魅力的だったから。
- 官邸との距離が近い内調であれば、常に国益を意識して働くことができると思ったため。
- 宇宙分野に興味があり、かつ安全保障に関する仕事をしたいとも考えていたため。
- 人工衛星の開発から運用、画像処理を業務としているため、自分の専門分野を生かしつつ、かつ自分に向いている仕事が見つかると考え、志望した。

Q11. 若手職員の、ある1日のスケジュールを教えてください

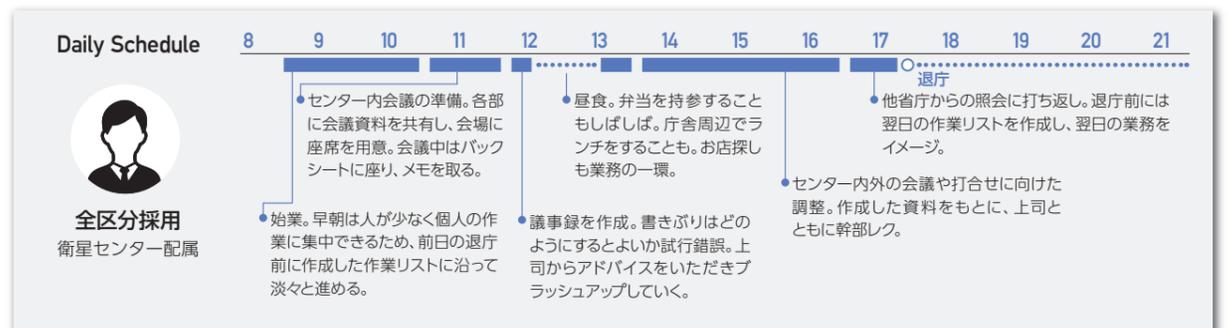


Q5. 入庁前後でギャップを感じたエピソードは?

- 人間関係が希薄そうだと想像していたが、同期だけでなく異なる世代の先輩職員とも、研修やメンター制度を通じて交流できる環境が整備されていたこと。
- 面接で疑問点は解消されて入室できたので特段ありませんでした。強いてあげるのであれば、映画のような最先端な執務室ではなく、一般的な執務室だったことです。

Q6. 達成したい目標や挑戦してみたいこと、目標とする人物像は?

- 分析・収集・管理をオールラウンドにこなせる人材になりたい。
- 「〇〇に相談すれば、何とかなる」といわれるような人になりたいです。
- 英語の勉強を頑張りたいです。自分は英語に苦手意識があり、学生時代も避けてきたが、上司や同期など当たり前前に英語を話せる人がまわりに多くいるため刺激を受けます。
- 仕事で生かせる専門性を磨きたい。目標とする人物像は、いつまでも謙虚さと誠実さを忘れない人。



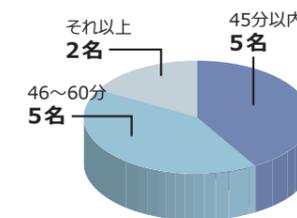
Q7. これまでの業務に印象に残ったエピソードは?

- ある事案についての資料作成を初めて担当した際、上司から何度も助言をいただきやっとの思いで資料を完成させました。その後、上司が政策側に対しレクを行う場に同席した際に、その資料が使われ、そのレクを隣で聞いている時にはとても緊張したのを覚えています。
- 官邸での業務。動向が目まぐるしく変化する官邸では、臨機応変な対応が求められるが、1年目から官邸に関わる仕事ができ、やりがいを感じた。

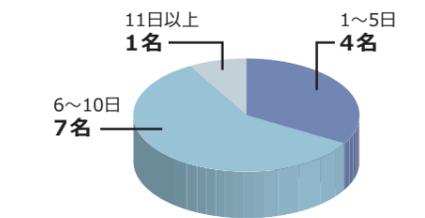
Q8. 内調を志望する学生さんへメッセージをお願いします。

- 内調が求められる役割の拡大や、キャリアの選択肢の幅等、とても可能性のある職場だと思います。このパンフレットを手にとってくださった皆さんと一緒に働ける日を、とても楽しみにしています!
- ギリギリまで自分のやりたいことに対して自問自答してみてください。自然と「ここだ」って思える官庁に巡り合えると思います。(自問自答は面接対策にもなります)
- 内調は、国家一般職であっても様々な形で主体的に活動できる、珍しい組織です。説明会等に積極的に参加し、好奇心をぶつけてください。

Q9. 職場までどれくらい?



Q10. 昨年の有給取得日数は? (夏季休暇3日を除く)



CAREER STEP

キャリアステップ

いずれかの専門家に

3つの柱

収集

分析

管理

本人の希望・適性に応じ、本格的に情報業務に従事(概ね3~4年目より)

入庁後、様々な部署を経験(1~2年)

全区分

衛星の管制・画像処理業務などに従事

内閣衛星情報センター技術系

入庁後、衛星及び地上施設の開発業務や衛星の打ち上げの管理を経験

情報の専門家になる

人材育成・キャリアアップの機会



新任者研修

新規採用の職員向けに複数回に分けて実施します。秘密保全教育に加え、情報機関の役割、各部門の業務を知ることで、日本の情報体制及び内調の全体像を具体的に把握し、内調の主力となる人材の素地を作ることを目的としています。



語学習得の支援

語学学校への通学補助や、組織での研修等を行っています。



研究員派遣制度

人事院の研修制度(長期在外研究員派遣制度、行政官短期在外研究員等)を活用して、「専門性」に磨きをかける機会を設け、職員がスキルアップできる環境を整えています。



他省庁への出向

専門性を強化し行政事務経験を積むため、情報コミュニティ省庁(警察庁、公安調査庁、外務省、防衛省)や内閣府等への出向の機会があります。



在外公館勤務

内調職員として培った知識・経験を生かして海外で勤務します。在外公館勤務は国外で多様な人々と仕事をする貴重な機会であり、希望する職員には積極的に機会を与えています。

日本の情報コミュニティの柱となる人材の育成を目指し、内閣情報調査室では様々な研修のほか、他省庁への出向、在外公館勤務等、キャリアアップのための豊富な機会を積極的に設けています。多種多様な経験を経て、収集・分析・管理のいずれかの専門家になることを目指しています。

Benefits & Recruitment

待遇・制度、採用について

内閣官房は原則として各省庁からの出向者で構成されていますが、内閣情報調査室は其中で唯一、独自の定期的採用を行っています。

令和3年度より、インテリジェンス機関としての求心力をより高めるべく、内閣情報調査室は内閣衛星情報センターと採用活動を一本化して実施しています。

採用数一覧表 ※()内は女性の数

試験年度	内閣情報調査室	内閣衛星情報センター
令和2年度	9 (3)	6 (4)
試験年度	全区分 (行政・技術問わず)	内閣衛星情報センター 技術系
令和3年度	7 (3)	4 (2)
令和4年度	8 (2)	6 (2)
令和5年度	10名程度	6名程度

初任給(令和4年度現在)

一般職(大卒程度試験)合格の場合
行政職(一)1級25号俸 225,840円
(地域手当、本府省業務調整手当含む)
※大学院卒、社会人経験のある方は俸給月額が加算されます。

賞与(ボーナス)

期末手当、勤勉手当として、年間4.50月分

諸手当

扶養手当、通勤手当、住居手当、超過勤務手当等

勤務地

内閣府本府庁舎(東京都千代田区永田町1-6-1)・在外公館等

勤務時間

原則 9:30~18:15
(勤務時間変更制度活用可)

休日

年次有給休暇 20日間
(4月採用者は、その年の12月まで15日間)
特別休暇(夏季、結婚、忌引等)
※仕事と育児・介護の両立を支援する制度があります。

福利厚生

- 共済組合制度(医療費の給付、診療所、契約施設(保養所等)の補助)
- グループ保険制度(団体保険、団体積立)
- 診療所(内科、歯科)
- 定期健康診断
- 人間ドック

column

職員の成長に欠かせない

多様なキャリア形成のサポートを実現(国際部門)

「出来が悪くて話にならない」——入室して1週間後、英語コラムの和訳という内調での初めての仕事は、上司のダメ出しから始まりました。「これまで海外に縁がなかったのだから、仕方ないじゃないか」と、心の中で言い訳する私に、上司は「こんなレベルだと、将来困る。英語研修を受けたらどうか」とアドバイスをくれました。

幸運なことに、その後、語学学校や海外留学で、英語を含め、3カ国語の研修を受ける機会に恵まれました。会議の内容が分からず冷や汗をかく、海外で言葉が通じず生活に困る。苦い思い出もありますが、研修と実務を繰り返しながら、在外公館勤務を経て、現在は国際部門でアジア地域の情勢分析に携わっています。ダメ出しからスタートした私ですが、翻訳や会議対応など、多くの場面で語学研修の成果が生きています。内調では、内外情勢の変化に対応して業務の幅が広がっており、私のように海外に縁がなかった人でも、国際分野に進む可能性を含め、多様なキャリアステップがあり得ます。これから採用される方にも、多くのチャンスがあるでしょう。チャレンジ精神を持ち、能力をフルに発揮したいと思う人と一緒に働くのを楽しみにしています。

Application Process

2023年度採用スケジュール

3月	1日～20日	国家公務員採用一般職試験 (大卒程度)受付期間
6月	11日	第一次試験日
7月	5日	第一次試験合格発表／ 官庁訪問予約受付開始
	7日	官庁訪問開始
	12日～28日	第二次試験(人物試験)日
8月	15日	最終合格発表日
10月	1日	採用内定

内閣情報調査室の説明会情報

内調採用ホームページを御確認ください。
https://www.cas.go.jp/jp/saiyou/saiyou_index.html



連絡先

内調情報調査室

採用専用TEL **03-5253-2107**

内閣衛星情報センター

採用専用TEL **03-3267-9564**



message

採用担当者から皆さんへ

当室の採用パンフレットを手にとっていただきありがとうございます。ニュースでご覧のとおり、我が国を取り巻く安全保障環境は年々厳しいものとなっています。緊迫する情勢下において情報が持つ価値も日々変化しており、当室に求められる業務も量・質ともに高まってきました。公務員数削減傾向にある中でも当室は新規採用者数を増やし続けており、採用担当としてどう組織に貢献できるのか試行錯誤の毎日です。

説明会の場で学生さんから、「内調に入るのは狭き門だと思うのですが、何をアピールすればよいでしょうか」とよく聞かれます。就職活動をしていた頃の自分を思い返すとそう考える気持ちはよくわかるのですが、いざ社会人になり、更に採用側にまわってから思うのは、ぜひ自分を創りすぎずに職員に会いにきてもらいたいということです。仕事を選ぶということは、長い人では今後約40年の過ごし方を決断するということ、人生の大半の時間の費やし方を決めるということです。

皆さんの中には、内調で働きたいといった明確な意思がある方、なんとなく名前を聞いたことがあり興味をもった方、他の省庁と迷われている方、様々な方がおられると思います。就職活動の中で色々な省庁・会社を知っていただき、その上で当室に入りたいと思ってもらえた際には、ぜひ飾った自分ではなくありのままを真っ直ぐにお話してもらえたらと思います。皆様が悔いのない職業選択をできるよう応援しています。



Beginnings

1952

Our History

内閣情報調査室の歴史

内閣情報調査室は、戦後、我が国が国際社会の荒波に耐えうるよう、旧総理大臣官邸の小さな一室で産声をあげました。着実に発展の道を歩み、年々組織の重要性が高まっています。

- 昭和27年4月9日 第3次吉田内閣 内閣総理大臣官房調査室 (総理府の組織として新設)
- 昭和32年8月1日 第1次岸内閣 内閣調査室 (組織変更により内閣官房に)
- 昭和61年7月1日 第2次中曽根内閣 「合同情報会議」を設置 内閣情報調査室 (内閣官房の組織再編により名称が変更)
- 平成8年5月11日 第1次橋本内閣 「内閣情報集約センター」を設置 (緊急な重要情報を24時間体制で収集し、内閣総理大臣等へ報告する)
- 平成10年10月27日・12月22日 小淵内閣 「内閣情報会議」を設置 情報収集衛星の導入について閣議決定
- 平成13年1月6日 第2次森内閣 内閣情報官を設置 (中央省庁再編に伴い内閣情報調査室長から格上げ)
- 平成13年4月1日 第2次森内閣 内閣衛星情報センターを設置 (情報収集衛星の開発・運用、画像情報の収集・分析)
- 平成20年4月1日 福田内閣 カウンターインテリジェンス・センターを設置 (外国の情報機関による情報収集活動から我が国の重要な情報や職員等を保護) 内閣情報分析官を設置 (特定の地域または分野に関する特に高度な分析)
- 平成26年12月10日 第2次安倍内閣 「特定秘密の保護に関する法律」の施行 (内閣情報調査室が特定秘密の保護に関する企画及び立案並びに総合調整事務を所掌)
- 平成27年12月8日 第3次安倍内閣 国際テロ情報の集約「国際テロ情報集約室」を設置 (国際テロ情報の集約、国際テロ情報の収集調査に関する連絡調整)
- 平成30年8月1日 第3次安倍内閣 国際テロ情報集約室に「国際テロ対策等情報共有センター (現:国際テロ対策・経済安全保障等情報共有センター)」を設置 (内調を含む関係11省庁と連携し、テロ情報の共有・分析を行う)

